

再評価調書

NO. 1

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道305号 越前町左右～茂原			
事業目的						
<p>国道305号は、石川県金沢市から福井県南越前町に至る延長約110kmの主要な幹線道路である。福井県内においては越前加賀海岸国定公園内の海岸沿いを縦貫し、「越前かに」や「水仙」など地域固有の特産物を生かした観光・産業を促進する上で重要な路線であり、また地域住民の生活を支える唯一の生命線道路である。しかし、越前町内においては幅員狭小・線形不良区間が多く存在しているため、観光シーズンには渋滞が発生し住民生活にも支障をきたしている状況である。よって地域の産業、経済の活性化を図ることはもとより、安全で円滑な交通を確保することを目的として、国道305号のバイパス整備を行っている。</p>						
全体事業内容 ※上段（ ）内は見直し後						
<p>(全体延長 L=3,475m(左右工区 675m 道口～茂原工区2,800m)) 全体延長 L=4,490m(左右工区1,530m 道口～茂原工区2,960m) (一般部 L=2,549m トンネル部 L=394m 橋梁部 L=532m(4橋)) 一般部 L=3,371m トンネル部 L=433m 橋梁部 L=686m(5橋) 幅員 W=6.5(14.0)m</p>						
事業計画 ※上段（ ）内 見直し後	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和63年度	昭和63年度	昭和63年度	(平成21年度) 平成24年度		
事業費(千円) ※上段（ ）内見直し後	全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考	
予 算 額	(11,625,000) 12,930,000	11,285,000	(97.1%) 87.3%	(340,000) 1,645,000		
財 源 内 訳	国 庫	(6,393,750) 7,111,500	6,206,750	/	(187,000) 904,750	55%
	県	(5,231,250) 5,818,500	5,078,250		(153,000) 740,250	
費用対効果	(1.3 (総費用 172億円、総便益 225億円)) 1.1 (総費用 184億円、総便益 201億円)					
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年度までに、越前町左右地内の約0.7kmを部分供用 平成20年度は越前町厨地内を施工中 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度に道口～茂原工区(L=2.8km)の供用を目指す。 				
コスト縮減等の取組み						
<ul style="list-style-type: none"> ・現道の活用により事業延長を縮小し、事業効果の早期発現を図る。 ・リサイクル材の活用や建設発生土の流用により、コスト縮減を図る。 						
事業を休止した場合の影響						
<p>左右工区については、呼鳥門の岩盤崩落危険箇所をトンネルにより迂回する工事が完了しており、当初の最低限の目的は達成されている。現道は、線形不良区間が一部あるものの、現状で2車線分の幅員は確保されている。道口～茂原工区については、現道が幅員狭小、線形不良であることから、事業を休止した場合、安全・安心な交通が確保できず、住民生活に支障をきたすことになり、現在までの投資も無駄になる。</p>						
備 考						

再評価調書

NO. 2

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 荒川 福井市勝見1丁目～吉田郡永平寺町松岡吉野			
事業目的						
荒川は、九頭竜川水系一級河川足羽川の支川であり、福井市の東部市街地を流れる河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の100m ³ /sから140m ³ /s(治水安全度1/2→1/30)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=10,600m 築堤L=8,200m 掘削V=441,000m ³ 護岸A=192,000m ² 遊水地 2箇所 排水機場 1式 水門 1基 橋梁 30橋 樋門・樋管 25基 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和35年度	昭和35年度	昭和35年度	平成35年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		43,000,000	13,293,500	30.9%	29,706,500	
財 源 内 訳	国 庫	21,500,000	6,646,750		14,853,250	50%
	県	21,500,000	6,646,750		14,853,250	
費用対効果		1.9 (総費用 395.2億円 、 総便益 768.5億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 足羽川合流地点～東今泉町及び原目～重立の掘削、築堤、護岸、ポンプ増設等を実施(築堤護岸5,498m、掘削114,940m³、水門1基、橋梁6橋を完了) 現在、上流遊水地(重立地区)を整備中 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 今後、上流遊水地(重立地区)を早期に供用開始し、中部縦貫自動車道や圃場整備との整合を図りながら重立工区を重点的に整備していく。 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
中下流の河道の拡幅と下流端の水門改築により、浸水被害の発生頻度は減少しているものの、上流部では大雨による浸水被害が発生しており、早急な河川改修および遊水地の供用が望まれている。このような中、事業を休止した場合、治水上の安全性が確保できないため、住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等が洪水で被害を受け、住民生活に多大な影響を及ぼす。						
備 考	区域内被害想定: 浸水戸数2,949戸 浸水面積740ha(内 農地浸水面積488ha) 区域内重要施設: 国道8号、国道416号、国道158号、県道(2)、小中高学校(4)、公民館(14)、 災害弱者施設: 病院(1)、保育園・幼稚園(5)、老人福祉施設(2) 過去の災害実績昭和40年9月18日(台風23・24号) 浸水戸数5,120戸、農地浸水面積140ha					

再評価調書

NO. 3

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 一乗谷川 福井市安波賀町～西新町			
事業目的						
一乗谷川は、九頭竜川水系一級河川足羽川の支川であり、現況流下能力が著しく低い状況である(現況30m ³ /s、治水安全度約1/5)。周辺は特別史跡区域内(朝倉氏遺跡)であり、民家等も多く、治水対策が急務となっていることから、流下能力160m ³ /s、治水安全度1/10に高めることで、水害から貴重な歴史遺産と住民の生命、財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=2,300m 掘削護岸工L=2,300m 橋梁 9橋 取水堰 1基 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和63年度	昭和63年度	昭和63年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		3,400,000	2,418,400	71.1%	981,600	
財 源 内 訳	国 庫	1,700,000	1,209,200	/	490,800	50%
	県	1,700,000	1,209,200		490,800	
費用対効果		1.2 (総費用 31.2億円、総便益 38.8億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長2,300mのうち、平成20年度末で1,440m完成 福井豪雨以降、線形を一部見直し、河道の狭い区間から拡幅しながら巨石積護岸の整備を実施 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 特別史跡区域内のため、関係機関と協議を行いながら残る取水堰や護岸の整備を整備を行っていく。 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
流下能力が低い未整備箇所について、豪雨時に溢水の危険性があり、民家や歴史遺産に甚大な被害を及ぼす。						
備 考	区域内被害想定 : 浸水戸数 32戸 農地浸水面積 26ha 区域内重要施設等 : 県道(1)、小学校(1)、公民館(1)、 医療提供施設(1)、一乗谷朝倉氏遺跡(特別史跡) [過去の災害実績] 昭和28年9月(台風23号) 浸水戸数97戸 また、平成16年の福井豪雨では一乗谷川全体で甚大な被害を受け、本事業計画区間上流部において河川等災害関連事業を実施済					

再評価調書

NO. 4

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 江端川 福井市江守の里～太田町			
事業目的						
江端川は、九頭竜川水系一級河川日野川の支川で福井市の南部市街地を流れる河川である。現況の流下断面が13～90m ³ /sと極めて治水安全度が低く、河道断面が不足していることから、流下能力を150～290m ³ /s(治水安全度1/7未満→1/50)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=5,709m 掘削・築堤・護岸L=5,709m 橋梁 17橋 排水機場 1式 樋門・樋管 35基 用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和52年度	昭和52年度	昭和52年度	平成35年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		36,193,000	23,954,900	66.2%	12,238,100	
財 源 内 訳	国 庫	18,096,500	11,977,450	/	6,119,050	50%
	県	18,096,500	11,977,450		6,119,050	
費用対効果		1.9 (総費用 356.8億円、総便益 677.1億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長5,709mのうち、平成19年度末時点で最下流部(江守の里)から江端町までの3,559mの改修が完了(延長換算進捗率62%) 平成20年度は江橋場川(市管理河川)の樋門工を施工 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 福井市江端町から国道8号交差点までの区間を重点的に、用地買収及び物件補償を行いながら整備を進めていく。 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。また、基礎鋼矢板に幅広型(B=600)を使用することで、これまでに打込費を17百万円縮減した。						
事業を休止した場合の影響						
事業区間は福井市の南部市街地にあり、事業を休止した場合、治水上の安全性が確保できないため、多くの住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等が洪水で被害を受け、住民生活に多大な影響を及ぼす。また、近年度重なる豪雨浸水被害が続発しており、地域住民からも事業促進の声が高い中で、洪水防御が急務な区間における事業休止による影響は甚大である。						
備 考	区域内被害想定 : 浸水戸数 4164戸 農地浸水面積 128ha 区域内重要施設等 : 国道(1)、鉄道(2)、高校(1)、小学校(1)、郵便局(1)、児童福祉施設(1)、医療提供施設(1)、保育園(4) [過去の災害実績] 平成16年7月18日(梅雨前線) 浸水戸数1,110戸、浸水面積518ha					

再評価調書

NO. 5

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 底喰川 福井市地藏堂町～大願寺1丁目			
事業目的						
底喰川は、九頭竜川水系一級河川日野川の支川で福井市中心部を流れる河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の50m ³ /sから85m ³ /s(治水安全度1/1→暫定1/12)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=5,880m 掘削護岸工 L=5,880m 橋梁 36橋 用地補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和54年度	昭和54年度	昭和54年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		31,000,000	17,333,700	55.9%	13,666,300	
財 源 内 訳	国 庫	15,500,000	8,666,850	/	6,833,150	50%
	県	15,500,000	8,666,850		6,833,150	
費用対効果		19.9 (総費用 284.9億円、総便益 5,669.7億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長5,880mのうち、掘削護岸工3,550m、橋梁14橋を完了 平成16年度以降、芦原街道上流の市道橋及び鉄道橋(えちぜん鉄道)整備を終え、島田橋(田原町商店街内)の下部工を施工中 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 今後、島田橋(田原町商店街内)及び田原橋(芦原街道)の架け替えとこれに伴う周辺護岸を重点的に整備していく。 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
未改修区間として密集した市街地部が約2.4km残っており、現在も浸水被害が多発している。特に上流部では市街化が急速に進んでいるため、浸水の頻度および被害の拡大が懸念されており、河川改修事業への期待が高まっている。このような中、事業を休止した場合、治水上の安全性が確保できないため、住宅・学校・鉄道・病院・幹線道路等が洪水で被害を受け、住民生活に多大な影響を及ぼす。						
備 考	区域内被害想定: 浸水戸数8,735戸 農地浸水面積 104.7ha 区域内重要施設等: 学校(10)、鉄道(JR北陸本線、えちぜん鉄道)、県道(2)、病院(4)、福祉施設(2)、幼稚園・保育園(9) [過去の災害実績]昭和46年9月 浸水戸数1,944戸、農地浸水面積87ha					

再評価調書

NO. 6

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 竹田川 坂井市三国町汐見～あわら市番田			
事業目的						
竹田川は、一級河川九頭竜川の支川で坂井市の中心部を流れる河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の650m ³ /sから1,300m ³ /s(治水安全度1/12→1/50)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=6,400m 築堤護岸工 L=6,400m 橋梁 6橋 排水機場 3箇所 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和50年度	平成4年度	平成8年度	平成35年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		26,000,000	16,470,100	63.3%	9,529,900	
財 源 内 訳	国 庫	13,000,000	8,235,050	/	5,241,445	50%
	県	13,000,000	8,235,050		4,288,455	
費用対効果		10.5 (総費用 239.0億円、総便益 2,506.4億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 下流より兵庫川合流点までの左岸側1,700mについては、築堤が概ね完了 九頭竜川合流点処理、排水機場移設1箇所、橋梁架替え2橋(港橋、栄橋)が完了 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 今後、兵庫川合流点までの左岸側の護岸工を完了させ、引き続き右岸側の護岸工を施工予定 残工事は、築堤護岸工 6,140m 道路橋 4橋 排水機場 2箇所 用地補償 1式 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
流域には、坂井市支所、消防本部等の防災拠点、えちぜん鉄道、国道305号等の広域交通施設および病院、幼稚園等の災害弱者施設、坂井市三国町、あわら市(旧芦原町)の多くの住宅等があることから、事業を休止した場合、治水上の安全性が確保できないため、洪水で多くの施設が被害を受け、住民生活に多大な影響を及ぼす。						
備 考	区域内被害想定 : 浸水戸数 4,333戸 農地浸水面積 3,029ha 区域内重要施設等: 国道(1)、鉄道(1)、市役所、県合同庁舎、浄化センター 医療提供施設(1)、幼稚園(1) [過去の災害実績] 昭和56年7月2日(梅雨前線) 浸水戸数102戸、農地浸水面積540ha					

再評価調書

NO. 7

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 兵庫川 坂井市三国町楽円～坂井町下兵庫			
事業目的						
兵庫川は、一級河川竹田川の支川で、坂井平野の集落間をぬって流れる河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の41m ³ /sから230m ³ /s(治水安全度1/5以下→1/10)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=6,840m 築堤護岸工 L=6,840m 橋梁 10橋 堰 2基 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成元年度	平成2年度	平成2年度	平成35年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		11,700,000	3,245,000	27.7%	8,455,000	
財 源 内 訳	国 庫	5,850,000	1,622,500	/	4,227,500	55%
	県	5,850,000	1,622,500		4,227,500	
費用対効果		1.6 (総費用 105.7億円、総便益 172.7億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 下流部(竹田川合流点～梅ヶ崎橋)の約4.4kmの用地買収完了 他事業関連箇所や可動が狭い区間について、橋梁架替3橋、築堤護岸工2,575m完了 平成20年度は築堤護岸工350mを施工 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 未買収用地の買収、橋梁架替7橋、築堤護岸工3,915m、堰2基について、国営かんがい排水事業との整合を図りながら事業を進めていく。 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
治水上の安全性が確保できないため、周辺は宅地開発が著しく進行しており、役場、学校、幹線道路等もあることから、洪水で多くの施設が被害を受け、住民生活に多大な影響を及ぼす。						
備 考	区域内被害想定：浸水戸数1,047戸 農地浸水面積 1,032ha 区域内重要施設等：県道(2)、鉄道(1)、学校(2)、郵便局(1) [過去の災害実績] 昭和40年9月18日(台風23・24号) 浸水戸数45戸(内床上浸水11戸)、浸水面積50ha 昭和56年7月2日(梅雨前線) 浸水戸数495戸、浸水面積1,919ha					

再評価調書

NO. 8

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 磯部川 坂井市春江町安沢～春江町為国			
事業目的						
<p>磯部川は、一級河川九頭竜川の支川で、坂井市春江町中心部を流れる河川である。 現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の9m³/sから90m³/s(治水安全度1/2以下→1/50)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=5,670m 掘削護岸 L=5,670m 橋梁 24橋 用地補償 1式</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和47年度	昭和47年度	昭和50年度	平成26年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		16,130,000	13,735,300	85.2%	2,394,700	
財 源 内 訳	国 庫	8,065,000	6,867,650	/	1,197,350	50%
	県	8,065,000	6,867,650		1,197,350	
費用対効果		7.4 (総費用 148.2億円、総便益 1,098.4億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 下流から5.55km完了しており、JR橋の架け替えを残すのみ 平成20年度よりJR橋の詳細設計に着手 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> JR橋、周辺護岸の施工 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
<p>残るJR北陸本線の橋梁部は、特に流下能力が小さいことから、線路盛土が堤防となって上流側に浸水被害をもたらす原因となっている。 事業を休止した場合、JR北陸本線交差部が未施工となり、治水上の安全性が確保できないため、上流側の住宅地における浸水被害を防げず、住民生活に多大な影響を及ぼす。</p>						
備 考	<p>区域内被害想定 : 浸水戸数 1,766戸 (想定氾濫浸水区域) 浸水面積 290ha 区域内重要施設等 : 鉄道(2)、県道(2)、市役所支所、郵便局、消防本部、児童福祉施設(1)、学校(3) 医療提供施設(1) [過去の災害実績] 昭和40年9月18日(台風24号) 浸水戸数208戸、浸水面積311ha、えちぜん鉄道1km 昭和56年7月2日 浸水戸数495戸、浸水面積1,919ha</p>					

再評価調書

NO. 9

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 浅水川 福井市三尾野町～鯖江市下河端町			
事業目的						
浅水川は、九頭竜川水系一級河川日野川の支川で鯖江市街地を流れる河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の350m ³ /sから950m ³ /s(治水安全度1/2→暫定1/30)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=7,415m 掘削築堤護岸工 L=7,415m 橋梁 11橋 樋門 12基 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和57年度	昭和57年度	平成元年度	平成26年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		35,054,000	33,175,500	94.6%	1,878,500	
財 源 内 訳	国 庫	17,527,000	16,587,750	/	939,250	50%
	県	17,527,000	16,587,750		939,250	
費用対効果		4.7 (総費用 322.1億円、総便益 1,523.1億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長7,415mのうち、2,715m(福鉄橋～穴田川合流点)が平成14年度までに概成 平成17年度までに全橋梁の工事が完了したが、用地・補償交渉の難航等により、4箇所で河道断面が未確保 平成20年度は、鳥羽橋・米岡橋付近の河道内掘削を実施 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 上流の鞍谷川助成事業の完成に合わせて流下断面の確保を行い、引き続き下流側から低水護岸を施工 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
上流部の改修効果が十分に発現できず、治水上の安全性が確保できないため、住宅・病院・福祉施設・幹線道路・鉄道等が再び浸水被害を受け、広い範囲で住民生活に多大な影響を及ぼす。						
備 考	区域内被害想定：浸水戸数 1,728戸 農地浸水面積 150ha 区域内重要施設等：国道(1)、鉄道(2)、児童福祉施設(2)、医療提供施設(1) [過去の災害実績] 平成10年7月10日(梅雨前線) 浸水戸数367戸、農地浸水面積285ha					

再評価調書

NO. 10

事業名	基幹河川改修事業		事業区間	一級河川 吉野瀬川 越前市家久町～広瀬町		
事業目的						
吉野瀬川は、九頭竜川水系一級河川日野川の支川で越前市街地を流れる河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の150m ³ /sから390m ³ /s(治水安全度1/3→1/30)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=8,370m 築堤護岸工 L=8,370m 橋梁 16橋 取水堰 4基 放水路 1箇所 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和57年度	昭和63年度	平成2年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予算額		31,000,000	4,518,200	14.6%	26,481,800	
財源 内訳	国庫	15,500,000	2,259,100	/	13,240,900	50%
	県	15,500,000	2,259,100		13,240,900	
費用対効果		9.0 (総費用 267.8億円、総便益 2,407.8億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 上流広瀬地区では掘込み河道によるショートカット(L=約0.7km)が完了しており、治水安全度が向上 下流日野川合流部の放水路開削区間の用地については、平成19年度に買収を完了 				
	H21以降残事業	下流部分の放水路区間(約1.3km)を重点的に整備していく。				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
事業区間は、越前市の中心市街地の西端にあり、事業を休止した場合、治水上の安全性が確保できないため、住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等が洪水により被害を受け、また、地形的に流域外の鯖江市にも浸水が想定されることから、広い範囲で住民生活に多大な影響を及ぼす。						
備考	区域内被害想定：浸水戸数2,538戸 農地浸水面積 2,000ha 区域内重要施設等：国道(1)、県道(2)、障害者福祉施設(2)、老人福祉施設(3)、総合病院(4)、学校(8) [過去の災害実績] 昭和40年9月18日 台風24号 浸水戸数 1,800戸 農地浸水面積 310ha					

再評価調書

NO. 11

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	二級河川 井の口川 敦賀市櫛川～敦賀市筋生野			
事業目的						
敦賀市西部市街地を流れる井の口川は、現況の流下能力が低いことから、治水安全度を現況の約1/2から1/50に高め、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=4,700m 築堤護岸 L=4,700m 橋梁 15橋 堰 3基 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和62年度	平成3年度	平成3年度	平成30年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		12,520,000	8,184,200	65.4%	4,335,800	
財 源 内 訳	国 庫	6,260,000	4,092,100	/	2,167,900	50%
	県	6,260,000	4,092,100		2,167,900	
費用対効果		1.5（総費用 110.8億円、総便益 164.9億円）				
事業の進捗状況		H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長4,700mのうち、築堤護岸1,900m、橋梁6橋、堰1基が完了 平成19年度に祝橋周辺（木崎地区）の用地買収が完了し、築堤護岸を施工中 平成20年度末で用地補償 60%完了予定 			
		H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 著しく流下能力が低い敦賀市木崎地係において、重点的に改修工事を実施しており、引き続き築堤護岸、橋梁を整備していく。 			
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
治水上の安全性が確保できないため、住宅・学校・病院・福祉施設・市役所等の防災拠点施設・幹線道路等が洪水で被害を受け、住民生活に多大な影響を及ぼす。						
備 考	区域内被害想定：浸水戸数 3,439戸 農地浸水面積 663ha 区域内重要施設等：県道(3)、市役所、警察署、県合同庁舎、児童福祉施設(1)、医療提供施設(8)、幼稚園(1) [過去の災害実績] 昭和40年9月17日(台風24号) 浸水戸数65戸、浸水面積136ha					

再評価調書

NO. 12

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	二級河川 南川 小浜市深野～おおい町名田庄久坂			
事業目的						
南川は、おおい町の旧名田庄地区から小浜市へかけて流れ、小浜湾に注ぐ二級河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を $1,100\text{m}^3/\text{s}$ (治水安全度 $1/4 \rightarrow 1/7$)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=3,600m 掘削護岸工 L=3,600m 橋梁 2橋 樋門・樋管 3基 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和55年度	昭和55年度	昭和55年度	平成21年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		3,764,200	3,714,200	98.7%	50,000	
財 源 内 訳	国 庫	1,882,100	1,857,100	/	25,000	50%
	県	1,882,100	1,857,100		25,000	
費用対効果		4.4 (総費用 33.3億円、総便益 147.9億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 護岸工左岸2.8km、右岸2.2km、橋梁2基、樋門・樋管1式が完了 残る護岸工右岸約0.1kmについては、H17年度に地元と補償交渉がまとまり、護岸工を施工中 				
	H21以降残事業	平成21年度完成に向け、残る掘削護岸工を進める。				
コスト縮減等の取組み						
建設発生土を他公共事業(県道小浜インター線など)へ流用しており、全体で約5.1億円のコスト縮減が図られる。						
事業を休止した場合の影響						
当初計画の流下能力が確保できず、未施工区間を中心に周辺部の公共施設、幹線道路に洪水の被害が及ぶ可能性がある。特に川に並行する国道162号は名田庄地区のライフラインとなっており、洪水により寸断された場合には被害が拡大する。						
備 考	区域内被害想定: 浸水戸数265戸 農地浸水面積 115ha [過去の災害実績] 昭和28年9月25(台風13号) 浸水戸数26戸、農地浸水面積45ha					

再評価調書

NO. 13

事業名	総合流域防災事業	事業区間	二級河川 多田川 小浜市城内～多田			
事業目的						
<p>多田川は、小浜市中心市街地を流れ、小浜湾に注ぐ二級河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の58m³/sから180m³/s(治水安全度1/2→1/30)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守る。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=3,169m 築堤掘削護岸工 L=3,169m 橋梁 12橋 用地補償 1式</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和44年度	昭和44年度	昭和44年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		6,660,000	5,419,200	81.4%	1,240,800	
財 源 内 訳	国 庫	3,330,000	2,709,600	/	620,400	50%
	県	3,330,000	2,709,600		620,400	
費用対効果		12.0 (総費用 61.2億円、総便益 733.5億円)				
事業の進捗状況		H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長3.169kmのうち、下流から2.5km(小浜市和久里)まで完了 現在は、上流側の用地買収を進めている。 			
		H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 舞鶴若狭自動車道など関連事業との調整を行い、残る上流側の約0.6kmの整備を進める。 			
コスト縮減等の取組み						
<p>既設護岸の有効利用、リサイクル材の活用、建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。</p>						
事業を休止した場合の影響						
<p>事業区間は小浜市街地であり、さらに上流の支川森川流域は急激な宅地開発が進んでいる。未改修区間においては浸水被害が多発していることから、事業が休止した場合には、市街地の住宅および国道27号、県道などの広域交通網等が洪水で被害を受け、住民生活に多大な影響を及ぼす。</p>						
備 考	<p>区域内被害想定 : 浸水戸数 129戸 農地浸水面積 66ha 区域内重要施設等 : 国道(1)、県道(2)、鉄道(1)、重要文化財(1) [過去の災害実績] 昭和28年9月17日(台風13号) 浸水戸数175戸、農地浸水面積1,635ha</p>					

再評価調書

NO. 14-1

(多目的ダムの場合)

事業名	河川総合開発事業 (ダム事業)	事業区間	吉野瀬川ダム 越前市広瀬町			
事業目的						
洪水調節 : ダム地点の計画洪水流量200m ³ /sのうち175m ³ /sの洪水調節を行い、水害から住民の生命と財産を守る。 既得取水の安定化・河川環境の創出等 : 既得取水の安定化および良好な河川環境の創出等のための流量を確保する。 工業用水 : 越前市、鯖江市の工業用水として新たに8,300m ³ /日(0.10m ³ /s)の取水を確保する。						
全体事業内容						
重力式コンクリートダム(ダム高 H=59.5m 堤頂長 L=184.5m 堤体積 V=138,500m ³ 総貯水容量 V=8,300千m ³ 有効貯水容量 V=7,300千m ³ 湛水面積 A=0.54km ²) 付替県道 L=5,349m 付替林道 L=5,000m 水没等移転戸数 N=37戸						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成3年度	平成12年度	平成13年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		33,000,000	16,290,877	49.4%	16,709,123	
財 源 内 訳	国 庫	16,879,500	8,332,784	/	8,546,716	55%
	県	13,810,500	6,817,732		6,992,768	45%
	その他	2,310,000	1,140,361		1,169,639	工水7%
費用対効果		10.9 (総費用 313.8億円、総便益 3,405.0億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度までに水没等による移転37戸はすべて完了 平成20年度末までに用地買収 89.5%完了予定 付替県道の全体延長5,349mのうち、280m(勝蓮花町)を平成20年度初めに供用済で、さらに平成20年度末には約2km(広瀬町～小野町)を供用開始予定 平成20年度に付替林道工事に着手 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 残りの用地買収を進め、早期のダム本体着工を目指す。 ダム本体(H=59.5m L=184.5m V=138,500m³) 付替県道 2,544m(内 橋梁 6橋 363.5m) 付替林道 4,740m 				
他事業との関連						
越前市・鯖江市の工業発展のための日野川地区工業用水道建設事業(新たに8,300m ³ /日(0.10m ³ /s)の取水を確保)と共に、一体的な整備を進めている。						
コスト縮減等の取組み						
付替道路の橋梁幅員や工事用道路の見直しなどで約5億円のコスト縮減を図っている。今後は、「福井県ダム整備監理委員会」の意見も踏まえ、さらなるコスト縮減に取り組む。						
事業を休止した場合の影響						
本事業は洪水調節や既得取水の安定化、良好な河川環境の創出等を目的としている。事業を休止した場合、住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等に被害が及び、住民生活に大きな影響を与えるなど、住民の生命と財産を洪水から守ることができない。渇水時には農作物や魚類等の生息などに影響を与え、大きな被害が発生する恐れがある。						
備 考						

再評価調書

NO. 14-2

(治水ダムの場合)

事業名	河川総合開発事業		事業区間	吉野瀬川ダム 越前市広瀬町		
事業目的						
洪水調節 : ダム地点の計画洪水流量200m ³ /sのうち175m ³ /sの洪水調節を行い、水害から住民の生命と財産を守る。						
既得取水の安定化・河川環境の創出等 : 既得取水の安定化および良好な河川環境の創出等のための流量を確保する。						
全体事業内容						
重力式コンクリートダム(ダム高 H=58.0m 堤頂長 L=184.0m 堤体積 V=131,500m ³ 総貯水容量 V=7,800千m ³ 有効貯水容量 V=6,800千m ³ 湛水面積 A=0.51km ²) 付替県道 L=5,349m 付替林道 L=5,000m 水没等移転戸数 N=37戸						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成3年度	平成12年度	平成13年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予算額		32,500,000	16,290,877	50.1%	16,209,123	
財源内訳	国庫	16,437,345	8,332,784	/	8,104,561	50%
	県	14,922,294	6,817,732		8,104,562	50%
	その他	1,140,361	1,140,361			
費用対効果		10.2 (総費用 333.1億円、総便益 3,405.0億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度までに水没等による移転37戸はすべて完了 平成20年度末までに用地買収 89.5%完了予定 付替県道の全体延長5,349mのうち、280m(勝蓮花町)を平成20年度初めに供用済で、さらに平成20年度末には約2km(広瀬町~小野町)を供用開始予定 平成20年度に付替林道工事に着手 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 残りの用地買収を進め、早期のダム本体着工を目指す。 ダム本体(H=58.0m L=184.0m V=131,500m³) 付替県道 2,544m(内 橋梁 6橋 363.5m) 付替林道 4,740m 				
コスト縮減等の取組み						
付替道路の橋梁幅員や工事用道路の見直しなどで約5億円のコスト縮減を図っている。今後は、「福井県ダム整備監視委員会」の意見も踏まえ、さらなるコスト縮減に取り組む。						
事業を休止した場合の影響						
本事業は洪水調節や既得取水の安定化、良好な河川環境の創出等を目的としている。事業を休止した場合、住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等に被害が及び、住民生活に大きな影響を与えるなど、住民の生命と財産を洪水から守ることができない。渇水時には農作物や魚類等の生息などに影響を与え、大きな被害が発生する恐れがある。						
備考						

再評価調書

NO. 15

事業名	河川総合開発事業 (ダム事業)	事業区間	河内川ダム 若狭町熊川			
事業目的						
<p>洪水調節：ダム地点の計画洪水流量250m³/sのうち180m³/sの洪水調節を行い水害から住民の生命と財産を守る。</p> <p>既得取水の安定化・良好な河川環境の創出等：既得取水の安定化および良好な河川環境の創出等のための流量を確保する。</p> <p>水道用水：小浜市、若狭町の水道用水として新たに15,552m³/日(0.18m³/s)の取水を確保する。</p> <p>工業用水：若狭中核工業団地に対し工業用水として新たに1,728m³/日(0.02m³/s)の取水を確保する。</p> <p>かんがい用水：鳥羽川流域地区226.4haの農地に対し、かんがい用水として新たに最大0.36m³/sの取水を確保する。</p>						
全体事業内容						
<p>重力式コンクリートダム(ダム高 H=77.5m 堤頂長 L=212.0m 堤体積 V=260,000m³ 総貯水容量 V=8,000千m³ 有効貯水容量 V=7,200千m³ 湛水面積 A=0.37km²) 付替県道 L=4,537m 付替町道 L=6,404m 水没戸数 N=35戸</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和58年度	平成5年度	平成5年度	平成29年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予算額		41,500,000	17,060,958	41.1%	24,439,042	
財源 内訳	国庫	20,462,613	8,412,332	/	12,050,281	55%
	県	16,742,137	6,882,817		9,859,320	45%
	その他	4,295,250	1,765,809		2,529,441	他費10.35%
費用対効果		1.1 (総費用 418.3億円、総便益 471.2億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成9年度までに用地補償は完了 現在は、本体工事に必要な補償工事(付替県道)を整備中 平成20年11月に、河内集落までの付替県道(約2.4km)を供用開始 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度のダム本体着工を目指す。 ダム本体(H=77.5m L=212.0m V=260,000m³) 付替県道 2,015m 付替町道 4,481m 				
コスト縮減等の取組み						
付替道路の道路線形の見直しなどで、約2億円のコスト縮減を図っている。今後は、「福井県ダム整備監理委員会」の意見も踏まえ、さらなるコスト縮減に取り組む。						
事業を休止した場合の影響						
本事業は洪水調節や既得取水の安定化、良好な河川環境の創出等を目的としている。事業を休止した場合、住宅・学校・病院・幹線道路等に被害が及び、住民生活に大きな影響を与えるなど、住民の生命と財産を洪水から守ることができない。渇水時には、農作物や魚類等の生息などに影響を与え、大きな被害が発生する恐れがある。						
備考						

再評価調書

NO. 16

事業名	河川総合開発事業 (ダム事業)	事業区間	大津呂ダム おおい町本郷			
事業目的						
洪水調節 : ダム地点の計画洪水流量 $28\text{m}^3/\text{s}$ のうち $20\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行い、水害から住民の生命と財産を守る。						
既得取水の安定化・良好な河川環境の創出等 : 既得取水の安定化および良好な河川環境の創出等のため流量を確保する。						
水道用水 : おおい町の水道用水として新たに $345\text{m}^3/\text{日}$ ($0.004\text{m}^3/\text{s}$)の取水を確保する。						
全体事業内容						
重力式コンクリートダム(ダム高 $H=40.6\text{m}$ 堤頂長 $L=158.5\text{m}$ 堤体積 $V=75,000\text{m}^3$ 総貯水容量 $V=485\text{km}^3$ 有効貯水容量 $V=430\text{km}^3$ 湛水面積 $A=0.033\text{km}^2$ 付替林道 $L=1,160\text{m}$)						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成元年度	平成9年度	平成11年度	平成23年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		9,800,000	4,573,041	46.7%	5,226,959	
財 源 内 訳	国 庫	4,743,200	2,213,352	/	2,529,848	50%
	県	4,743,200	2,213,352		2,529,848	50%
	その他	313,600	146,337		167,263	上水道3.2%
費用対効果		1.8 (総費用 108.7億円、総便益 199.8億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・用地補償および付替林道完了 ・平成19年度末にダム本体着工、平成20年度は基礎掘削および貯水池内掘削等を実施 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度からコンクリート打設 ($V=75,000\text{m}^3$)を開始するとともに、管理設備を設置し、平成23年度の完成を目指す。 				
コスト縮減等の取組み						
ダム堤体形状の見直しや他事業の工事用道路の使用等により約32億円のコスト縮減を図っている。今後は、「福井県ダム整備監理委員会」の意見も踏まえ、さらなるコスト縮減に取り組む。						
事業を休止した場合の影響						
本事業は洪水調節や既得取水の安定化、良好な河川環境の創出等を目的としている。事業を休止した場合、住宅・学校・福祉施設等に被害が及び、住民生活に大きな影響を与えるなど、住民の生命と財産を洪水から守ることができない。渇水時には農作物や魚類等の生息などに影響を与え、大きな被害が発生する恐れがある。						
備 考						

再評価調書

NO. 17

事業名	港湾環境整備事業	事業区間	和田港 尾内地区 おおい町尾内			
事業目的						
<p>地域発展の重要プロジェクトである「若狭大飯マリンワールド(愛称:うみんぴあ大飯)」の計画において、おおい町や民間事業者の施設と一体的に整備することにより、港湾環境の保全及び改善を図るとともに、利便性の高い快適で質の高い港湾環境を形成し、地域住民や利用者等に人々の交流、レクリエーションの場を提供することを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体面積 A=59,510m² 用地造成 : 護岸 L=588m 埋立 V=132,800m³ 排水施設 L=144m 緑地 : 緑地 A=59,510m²</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成6年度	平成6年度	平成6年度	平成24年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予算額		2,727,000	2,247,000	82.4%	480,000	
財源 内訳	国庫	1,079,000	839,000	/	240,000	1/2, 1/3
	県	1,648,000	1,408,000		240,000	
費用対効果		1.3 (総費用 56.0億円、総便益 73.9億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年度までに用地造成が完了、平成16年度より緑地の整備に着手 全体面積59,510m²のうち、こども家族館周辺の22,420m²(供用率38%)を平成20年度に部分供用 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度の複合交流施設周辺の7,210m²(50%)の供用、平成24年度の全体供用を目指す。 				
コスト縮減等の取組み						
<p>用地の造成においては、舞鶴若狭自動車道の整備に伴い発生した残土を流用することで約3.2億円のコストの縮減を図った。また、緑地の整備においても整備計画の見直しを行い、整備費用約2.3億円および維持管理費用の縮減を図っている。</p>						
事業を休止した場合の影響						
<p>平成20年8月にこども家族館の供用および隣接する緑地の部分供用をしたが、事業が中止した場合、未整備の用地のみが存在し、「うみんぴあ大飯」全体の景観および環境に対する悪影響を及ぼす。さらには、福井県のみでなく、おおい町、民間事業者の整備施設の利用促進に対する弊害となり得る。</p>						
備考						

再 評 価 調 書

NO. 18

事業名	海岸環境整備事業	事業区間	敦賀港海岸 赤崎地区 敦賀市赤崎			
事業目的						
<p>敦賀港海岸赤崎地区は、古くから海水浴場として利用されてきたが、近年の海浜侵食によって海浜幅が減少したため、背後民家への越波被害の発生と海水浴場としての魅力低下が問題となった。このため、離岸堤や突堤の整備により波高を減少させるとともに、養浜により汀線を前出しすることで越波防止を図るほか、駐車場、緑地等を設置することで海水浴場としての魅力を回復することを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=1,200m(鞠山工区 L=320m 田結工区 L=293m 赤崎工区 L=587m) 離岸堤 L=440m 突堤 N=5基 護岸 L=1,107m 人工海浜(養浜) A=47,000m²</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和61年度	—	昭和61年度	平成29年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		9,942,900	6,857,100	69.0%	3,085,800	
財 源 内 訳	国 庫	3,314,300	2,285,700	/	1,028,600	1/3
	県	6,628,600	4,571,400		2,057,200	
費用対効果		1.2 (総費用146.8億円、総便益172.5億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鞠山・田結工区については整備が完了し、供用済 ・赤崎地区については、平成16年度に離岸堤、平成17年度に突堤が完成し、外郭施設は完了 ・現在は、背後の埋立のための護岸の整備および養浜工事を実施 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> ・赤崎地区の残工事(延長 587m、突堤 1基、護岸工 567m、人工海浜 24,100m²)のうち、突堤までの護岸工や人工海浜を優先して進める。 				
コスト縮減等の取組み						
<p>人工海浜の材料として現地砂を流用することで約1.6億円のコスト縮減を図る。 また、県内の海岸の堆積砂を受け入れることでコスト縮減を図る。</p>						
事業を休止した場合の影響						
<p>砂浜の侵食が進行することにより、背後の家屋連担部における越波被害が発生し、住民の安全性が確保できない。さらに砂浜が減少することで、海水浴客が大幅に減少する可能性が指摘されており、観光面で大きな損失となる。</p>						
備 考						

再評価調書

NO. 19

事業名	九頭竜川流域下水道事業		事業区間	竹田川処理区 福井市の一部・あわら市・坂井市		
事業目的						
<p>本事業は、公共用水域の水質保全と生活環境の改善を目的に、3市(福井市の一部、あわら市、坂井市)を処理区域として昭和52年度に事業着手した。昭和57年度から一部供用を開始しており、平成27年度の完成を目標に、関係市の下水道普及にあわせた処理場および管渠の整備を行っている。</p>						
全体事業内容 ※上段()内は見直し後						
<p>(処理場(水処理 9系列) 中継ポンプ場 N=6箇所 幹線管渠 L=76.7km) 処理場(水処理 11系列) 中継ポンプ場 N=6箇所 幹線管渠 L=76.7km</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和52年度	平成53年度	昭和53年度	平成27年度		
事業費(千円) ※上段()内見直し後		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		(66,000,000) 68,500,000	55,825,271	(84.6%) 81.5%	(10,174,729) 12,674,729	
財 源 内 訳	国 庫	(39,700,000) 41,598,000	33,171,800	/	(6,528,200) 8,426,200	1/2, 2/3
	県	(10,887,000) 12,139,000	9,098,000		(1,789,000) 3,041,000	
	その他	(15,413,000) 14,763,000	13,555,471		(1,857,529) 1,207,529	
費用対効果		(1.25 (総費用3,267億円、総便益4,073億円)) 1.26(総費用2,704億円、総便益3,407億円) 本分析は流域に接続している関係市の公共下水道事業を含めて算出している。				
事業の進捗状況	H20までの状況	・処理場については全体計画9系列のうち7系列まで施工済 ・中継ポンプ場については全体計画6箇所全て施工済 ・幹線管渠については全体計画76.7kmのうち74.2kmまで施工済				
	H21以降残事業	・処理場については8、9系列を整備 ・幹線管渠については残る北部圧送幹線の3条目2.5kmを整備				
コスト縮減等の取組み						
人口減少等の社会情勢の変化を考慮した施設規模に見直した。(平成20年度に11系列から9系列に変更し、約25億円削減) 処理場設備について新技術を採用し、維持管理費の縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
地域住民の快適な生活環境の確保に支障をきたす。						
備 考						

再評価調書

NO. 20

事業名	道路改良事業	事業区間	一般県道 舟橋松岡線 福井市北野上町～永平寺町松岡室			
事業目的						
一般県道舟橋松岡線は、福井市街地北部と永平寺町中心部を連絡する幹線道路であり、現在整備を進めている区間は、福井県立大学、福井県産業情報センターを中心とした学術研究ゾーンから、福井北インターチェンジへアクセスするバイパスであり、アクセスの向上および交通混雑の緩和、災害時の緊急輸送道路の確保することを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=1,220m 一般部 L=1,062m 跨線橋部 L=158m 幅員 W=6.5(15.0)m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成11年度	平成11年度	平成12年度	平成21年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		2,696,000	2,576,000	95.5%	120,000	
財 源 内 訳	国 庫	1,289,850	1,217,850	/	72,000	55%, 60%
	県	1,406,150	1,358,150		48,000	
費用対効果		1.8（総費用 35.6億円、総便益 65.4億円）				
事業の進捗状況	H20までの状況	・全体延長1,220mのうち、えちぜん鉄道跨線橋158mを含む約430mを平成20年3月に供用開始				
	H21以降残事業	・残る790mについて、平成21年度の供用を目指す。				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
現在は、バイパス整備区間が現道に取り付かず、また、供用開始した区間以外の現道は、幅員狭小、線形不良で交通の安全性が確保できない状況であることから、事業を休止した場合には、交通混雑が緩和されずに地域住民の生活に支障をきたすだけでなく、地域間の交流・連携の強化を図ることができない。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 21

事業名	道路改良事業	事業区間	一般県道 勝山インター線 勝山市鹿谷町～遅羽町			
事業目的						
一般県道勝山インター線は、中部縦貫自動車道の勝山インターチェンジと勝山市街地を連絡する道路であり、中部縦貫自動車道の供用開始により交通量の大幅な増大が見込まれる勝山市街地や周辺の観光地に円滑にアクセスさせることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=1,658m 一般部 L=1,552m 橋梁部 L=106m(3橋) 幅員 W=6.5(13.0)m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成11年度	平成11年度	平成11年度	平成24年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		2,882,000	1,666,000	57.8%	1,216,000	
財 源 内 訳	国 庫	1,646,150	916,550	/	729,600	55%, 60%
	県	1,235,850	749,450		486,400	
費用対効果		2.1 (総費用 32.8億円、総便益 68.2億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長1,658mのうち、起点側約800m(鹿谷新橋、落合橋を含む)を平成14年度に部分供用 平成19年度にえちぜん鉄道跨道橋部を施工済 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> 残る858mについて、平成24年度の供用を目指す。 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
事業を休止し、バイパス整備区間が完成しない場合には、中部縦貫自動車道(福井北IC～大野IC)の開通後に現道の篠尾勝山線を走行する車両が増えるため、交通混雑が避けられず、地域住民の快適な生活環境が確保できない。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 22

事業名	道路改良事業	事業区間	一般県道 帆山王子保停車場線 越前市 向新保町～下平吹町			
事業目的						
一般県道帆山王子保停車場線は、越前市街地の帆山町から同市南部のJR王子保駅に至る通勤、通学など地域住民の重要な生活道路であり、国道365号のバイパス的機能を有する幹線道路としても位置づけられている重要な路線である。当事業は現在、交通不能となっている区間を解消し、地域住民の生活道路の利便性の向上と交通混雑が著しい国道365号の渋滞緩和により、嶺北南部の地域間交流の促進および地域の活性化を図ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=1,700m 一般部 L=1,405m トンネル部 L=271m 橋梁部 L=24m(1橋) 幅員 W=6.5(11.25)m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成11年度	平成11年度	平成13年度	平成22年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		1,920,000	1,151,000	59.9%	769,000	
財 源 内 訳	国 庫	1,094,450	633,050	/	461,400	55%, 60%
	県	825,550	517,950		307,600	
費用対効果		4.1（総費用 21.3億円、総便益 86.6億円）				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長1,700mのうち、越前市向新保町～下平吹町間の約1.4kmを施工中 平成20年度はトンネル部および一般部を施工 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> トンネル部や橋梁部等の施工を進め、平成22年度の全線供用開始を目指す。 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
交通不能区間が解消されずに国道365号のバイパス機能が発揮できなくなるため、国道365号の交通混雑が緩和されず、地域住民の快適な生活環境の確保に支障をきたすだけでなく、地域間の交流・連携強化を図ることができない。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 23

事業名	道路改良事業	事業区間	主要地方道 鯖江美山線 鯖江市 長泉寺町～上河端町			
事業目的						
<p>主要地方道鯖江美山線は、鯖江市の産業拠点地区(サンドーム福井)及び世代間交流拠点地区(鯖江文化の館など)と伝統産業地区(漆器の里)を連絡する重要な道路である。しかし、当該区間の踏切部は、1日の遮断時間が長く、交通が混雑する地点となっている。このため、早急に立体交差化を行うことにより、交通渋滞や事故の危険性を排除することを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=450m 一般部 L=414.5m JRアンダー(ボックスカルバート)部 L=35.5m 幅員 W=6.0(16.0)m</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成11年度	平成11年度	平成11年度	平成23年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H20年度まで)	進捗率 (H20末)	残事業費 (H21以降残額)	備考
予 算 額		3,500,000	2,389,000	68.3%	1,111,000	
財 源 内 訳	国 庫	1,980,550	1,313,950	/	666,600	55%, 60%
	県	1,519,450	1,075,050		444,400	
費用対効果		1.3 (総費用 37.6億円、総便益 48.4億円)				
事業の進捗状況	H20までの状況	<ul style="list-style-type: none"> 全体延長450mのうち、上河端町(約75m)を平成17年度に部分供用 平成19年度からJRアンダー部(L=35m)を施工中 				
	H21以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> JRアンダー部(L=35m)については、平成21年度完成予定 その後、一般部の工事を行ない、平成23年度の全線供用開始を目指す。 				
コスト縮減等の取組み						
リサイクル材の活用や建設発生土の現場内流用及び他公共事業への流用を促進して、コスト縮減を図る。						
事業を休止した場合の影響						
<p>事業を休止した場合、踏切の立体交差化が完成しないことから、交通混雑の緩和および踏切の安全対策が図られないため、地域住民の快適な生活環境の確保に支障をきたすだけでなく、地域間の交流・連携強化を図ることができない。</p>						
備 考						